

北海道寿都町樽岸海岸におけるタコブネの漂着

圓谷 昂史¹・澄川 大輔²Stranding record of the brown paper nautilus
Argonauta hians on Tarukishi beach, Suttu Town, Hokkaido.Takafumi ENYA¹ and Daisuke SUMIKAWA²

北海道寿都町樽岸海岸において、タコブネ *Argonauta hians* (Lightfoot, 1786) の漂着が初めて確認された (Fig. 1). 採集されたタコブネは、2013年11月10日に筆者の1人である澄川が、汀線付近を調査中に海藻類と共に発見したものである (Fig. 2). 本標本は、殻長66.1mm、殻高42.9mm、殻幅33.8mmであり、殻はやや厚く鉛色で放射肋が粗いことからタコブネと同定される (奥谷 2000). しかし、殻の表面は全体的に磨耗が進んでおり、殻口周縁部および殻前方は破損し、殻周縁部の突起は全て削り取られていた. また、採集時には近縁種のアオイガイ *Argonauta argo* やその他の暖流系生物は随伴しなかった.

2005年以降、北海道日本海沿岸ではアオイガイの大量漂着が報告されており、2010・2012年には石狩湾でタコブネの漂着が複数回確認された (志賀 2013; 圓谷・鈴木 2014). 今回採集されたタコブネは、殻の磨耗状態や採集時にアオイガイなどの暖流系生物が確認

されていないことを考慮すると、2012年に漂着し砂浜に埋没したものが、2013年秋に洗い出された二次的漂着の可能性が高い. しかし、これまで北海道におけるタコブネの漂着記録が10地点程度と限定されていることから、今回の漂着記録は、タコブネ科の北方進出と海洋環境の変動を考察する上で重要な基礎データとなる.

謝 辞：北海道教育大学の鈴木明彦教授にはタコブネの鑑定について、伊達市の吉野克氏には寿都町の海岸に関する情報についてご教授いただき、北海道開拓記念館の堀繁久氏には調査にご同行いただきましたので厚くお礼申し上げます. また、本研究は日本学術振興会科学研究費 (若手 (B) 26740061) を使用した.

参考文献

- 圓谷昂史・鈴木明彦 2014. 2012年秋における北海道蘭島海岸へのタコブネの漂着. *ちりぼたん* 44: 66-70
 奥谷喬司 2000. 日本近海産貝類図鑑. 1172pp. 東海大学出版会, 東京.
 志賀健司 2013. 北海道石狩湾岸に2010年と2012年に漂着したタコブネ. *漂着物学会誌* 11: 33-34.

(Received July 2, 2014; accepted July 25, 2014)

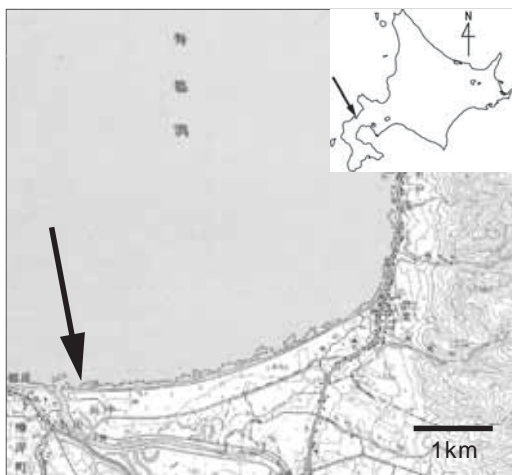


Fig.1 Map showing locality site of Tarukishi beach, Suttu Town, Hokkaido.



Fig.2 A shell of *Argonauta hians* collected at Tarukishi beach.

¹ 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道開拓記念館

¹ Historical Museum of Hokkaido, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan

² 〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1 株式会社セ・プラン

² Ceplan co., Ltd, 1-5-4-1 Atsubetsu-center, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0051, Japan